

北海道胆振東部地震の検証会議に係る議事録

○ 日 時 平成31年1月29日（火） 午後3時～午後5時30分

○ 場 所 芦別市役所3階 議1会議室

○ 出席者 別紙1「胆振東部地震検証会議出席者名簿」のとおり
(出席者 26名)

○ 次 第 別紙2のとおり

1 開会

2 総務部長あいさつ

3 検証

(1) 事前調査の結果について（別添1）

まず、資料の確認をします。

①北海道胆振東部地震の検証会議 会議次第

②別添1として北海道胆振東部地震の検証に係る調査結果

③別添2として北海道胆振東部地震の検証 クリップ止め

この中に別紙1、資料1、資料2、別紙2

④社協さんから提供をいただいた、「北海道胆振東部地震災害時ふりかえりシート
集計結果」

⑤北海道経済部が発行した大規模停電の備え＜事例集＞

⑥A3用紙の大規模停電タイムライン

資料で、不足している方がいましたら、手をあげてください。

【別添1により説明を行う】

それでは、(1)事前調査の結果について説明します。

まず、1 地震発生時につきましては、

Q1 地震に気づいたかについては、ほとんどの方が気づいた。

Q2 どこにいたかについては、時間が深夜であったことから、ほとんどの方が家に
いた

Q3 何をしていたかについては、寝ていた方がほとんどで、若干静かにしていた方
がいました。

Q4 食器類などの動き・は損については、気がつかない、かすかに音を立てた、
がたがたと音を立てたが、同じくらいの回答となっています。

次に、2 停電中のことについて

Q 5 広報車のことについて知っていたかについてですが、おおむね同じくらいの回答となっています。

Q 6 内容を聞き取れたかについてですが、おおむね 3/5 の方が聞き取れなかったという結果になっています。

Q 7 停電時の情報を得るための手段ですが、ラジオが大半を占めております。

Q 8 普段情報を得る手段としては、テレビが多く、次いでラジオという結果になっております。

Q 9 についての、P 5～P 17 については、町内会、民生委員、社協、介護支援事業所さんにお配りしたものであり、P 18～P 21 については無作為抽出した企業、お店からのものです。

まず、P 5 ページ、P 6 ページの情報伝達についての主だった問題点は、「広報車の伝達が悪かった」、「電話が使えない」ことであり、

P 7 ページ、P 8 ページの備蓄品についての主だった問題点は、「防災用品不足」、「市民がどれだけの備品がどこにあるのか理解していない」ことであり、

P 9 ページ、P 10 ページの避難所についての主だった問題点は、「被災当日、何百人も集中すると対応できるのか」についてや、「夏場はよいが、体育館など福祉センターに発電機があったら良いのではないか」であり、

P 11 ページ、P 12 ページの安否確認についての主だった問題点は、「高齢化な社会、地域においてはたいへんになってくる」、「1 人での対応は限りがあり連携が必要である」等であり、

P 13 ページから P 17 ページの今後の問題点についての主だった問題点は、「暖房が使えなくなること」であり、

P 18 ページから P 21 ページのお店・企業から出された主なものは、「危機管理」、「従業員との連絡」、「復旧、通電の時期等すべてに関して情報が少なかった」、「電話が繋がらない」という問題点が出されています。

これについては、検証のときに参考にしたいと思います。

なお、P 5 ページから P 21 ページの一番左側に、カッコ書きの数字がつけられています。

これについては、この後、行います検証項目の番号に連動しています。

(2) 北海道胆振東部地震の検証（別添 2）

1 北海道胆振東部地震の被害・対応の状況（別紙 1）

【別紙 1 により、芦別市における被害・対応の状況について説明を行う】

【資料 1 により主な時系列の対応についての説明を行う】

2 検証項目について

【別紙 2 により検証項目について説明を行う】

検証項目につきましては、北海道が行っている検証項目におおむね合わせております。追加する項目があった場合につきましては、その他で取り扱いたいと考えています。

3 検証（別紙 2）

【別紙 2 により検証について説明を行う】

(1) 情報収集・通信について

【質疑応答】○出席者：断水のデマ情報は、いつ発信されたのか。発信元はわからないのか。

○事務局：10時の連絡会議に初めて分かったので、その前だと思います。発信元は、わかりません。

○出席者：テレビで断水情報が出たと書いているが。(別添1 P6 中段)

○出席者：北海道の人はテレビを見れないが、本州の人はテレビを見て、携帯でその情報を伝えてくれる。それを受けた人が拡散して、その情報を流す。

私たちのところは、赤平市で、断水が始まったという情報が入ってきた。そしてデマ情報ですが、別の情報が入ってきて(病院でも貯水する。)、発信元がわからないけれど、いろんな情報が入ってくるから、各自に電話をした。しかし、あまりにもおかしいので、市に電話をして確認をしたところ断水がないということを確認して、みんなにその情報を伝えた。

そのあと、内容はよくわからなかったけど、広報車が回っていた。

○事務局：問題点の一つですね。今でしたら Twitter や LINE などで、情報を伝えることができますが、その当時は、まだありませんでしたので、39メールも使えない状況でしたので、その情報を打ち消すための手段は広報車しかありませんでした。しかし、それが聞こえないといわれる状況でしたから、今後の問題だと認識しています。

○出席者：幸い、本町地区の町内会長は、神社に集まっていたので、確認をして各町内会長さんがそれぞれの役員に情報(水道の情報がデマであるという話)を流した。

○出席者：発電機を貸していただいた。自分の経験では初めてだった。すぐに通電されると考えていたが甘かった。予算の関係がありますが、今後発電機を芦別市ではそろえるのかということと、今後停電があったときに貸していただけるのか、購入を考えた場合、芦別市に申し込めば格安で購入、共同購入できるのか。

○事務局：発電機の関係についてですが、今後どうなるかわかりませんが、増やしたいという考え方は持っています。ただ、この間の時もそうですが、発電機の使用状況によります。

まずは、避難所に持っていくというのが大前提になりますので、使用していない発電機があれば、貸

し出すことは可能だと思います。今回も、発災の次の日の朝からですが、入院施設のある病院、介護施設に、食料の関係と電気の関係についてお電話で確認をしました。しかし、旭地区については、通電されていなかったため、電話が繋がらないことから、職員を派遣して状況を確認させてもらい、発電機がないということがわかったので、貸し出しをしたという流れです。

共同購入については、必ずしも市で購入するのが安いかどうかは、わかりません。

○出席者：あれから自分たちで探したが、どれがいいかわからない。どんなのがいいのか防災に聞きたいという気持ちがある。

細かい情報かもしれないけど情報がほしい。

今後、日常的に市との細かいところでの連携、病院、施設との連携をもう一步進めることができたかなと思います。情報提供ですね。停電になったらここにおいでだとか、窓口みたいのがあれば助かるかなと感じた。

○出席者：大型の自家発電装置、普段使うガスで動くのもので、それでも普段の1/7くらいしか電気を使用できなかった。食事も温かいものを提供していた。ボイラーが使えないので、風呂、お湯を使うことができなかった。冬に停電になったら、大変かなと思いました。

今回の旭町の状況については、私たちも2日間泊まりました。情報ということでは、北海道から自家発電装置の補助金が用意されている話があり、それを使わないか、数日後に手をあげてくださいという話があり、短期間の中で意思表示するのは難しいと感じながらいました。こういう情報が必要なんだろうと感じながら聞いていました。

○出席者：芦別に電気は、何回路で入ってきているのか知っているのかな。

○事務局：わかりません。

○出席者：8回路くらいで入ってきているらしい。

○事務局：北電に、エリアの話などしましたが、教えてもらえない。テロ対策などの関係から社内秘ということになっているようで、それを聞き出しても市民の方に伝えることができない状況となる。今現在についても市では、教えてもらうことができない状況です。

○出席者：病院だとか、ブロックごとに通電されているのは聞

いている。

一般的にどのようになっているのかは、北電は教えてくれない。

○事務局：今回、停電している場所の情報も教えてもらうことができず、目視で確認している状況でした。

○出席者：全部いっぺんにつけることができないので、時間差でつけている。

○出席者：あちこち太陽発電が立っている。あれを何とかしてくれないのかと北電に話をした。しかし、パンクしてしまうという話でした。それだったら何のために建てたのかと思った。

○出席者：北電が買い上げるので、その地区では使えない。

○事務局：水力発電も芦別にはいっぱいありますが、そのままでは使えないので、いったん遠くの変電所に電気が集められる。そこから一般家庭で使用できる電気に変換されて送電されている。芦別に直接電気が送電されているわけではないですね。

先ほどの情報共有の部分ですが、今日の段階では問題点として、ご意見を伺いまして、次回会議を開催するときに、会議の中でお答えしていきたいと考えています。

○出席者：水の確保の話ですが、自分は関東の出身なものですから、地震があったら水を確保するという経験をきているので、今回の地震もすぐに水をためた。それが当たり前の自衛の策と考えていましたが、今回、赤水が出たということですが、市民の方が自衛のために水をためて赤水が出たことの方が、改良すべき問題なのではと思いました。

○出席者：芦別に備蓄しているものがあるが、これだけあるということを市民の方はどれだけ知っていたのか、どのように伝えていたのか、有事の時は一にも二にも情報が大事なので、こういう情報もなるべく広範囲に市民の方に伝えていかななくてはならないのかなと感じています。

避難されてきた方には提供されているが、知らなかった人や一人暮らしの高齢者はこういった情報を知りようがない。どれだけ正しい情報を伝えていけるのかなということが大切だと思っています。

東日本大震災の時も、正しい情報と、デマの情報があり、最初にデマの情報がたくさん入ってくる。それを振り分けていって、最終的に発信元がここだったら大丈夫だということを芦別市が行ってほし

い。

広報車で回っていたのも聞いていました、SNSで情報が入り、地震が来るようなことを自衛隊の人が話していたとの情報も入りましたが、考えると自衛隊の方がそんな話をするわけがないんですよね。実際電気がつかない状況でこういった情報が入ると、そうなのかなと思ってしまう。

正しい情報をどのように伝えていくかを煮詰めていってほしい。

おそらくこれで今回あった地震の問題点の半分は解決するのかなと感じます。ここに来ればこのような情報があるといったことがわかるようなことや、市の方が、こういったものに載せましたということ載せただけではなくて、受け取った方が、どうやってこれを知っていただいたか検証すべきだと思います。受け取ってもらえたのかということをおわからないまま発信していても意味がない。停電箇所もそうだと思います。

○出席者：情報と、ブラックアウトを問題視していますが、今回地震が先にあった。

まずは避難することが先に必要。建物が大丈夫かどうかの確認は素人ではできません。今回避難所が2カ所しかないということが問題だと思うことと、福祉避難所を開くことを、今回できなかったのかなということ。

グループホームあさひの大高さんが話していました、利用者さんをまずは、福祉避難所に避難させるといった行動もありなのかなと思う。そのほうが福祉関係の方に情報を伝達できるのかなと思う。

物資に関しては、どういった人にあげるのかを考えないと、一瞬にして物資がなくなってしまう。例えば、高齢者の方だとか小さいお子さんがいる方に配るだとか。短期なのか長期なのかわからないです、情報を出すときにどこまでしておくかです。

厚真町でも、今回こういうものがありますという情報を出し、住民の方が押し掛け物資が不足しかねたといったことがありました。こういったことも踏まえてもらえればと思います。

○出席者：避難する際の情報は今回わかっていて、高齢者なので避難するというのはわかるんですが、どうやって避難するのか、行った場所で、ご利用者のことを考えなければならないので、避難したらいい、避難し

なかったから駄目だということではない。

今回のブラックアウトに関しては、利用者の生命が第一です、食料もある、水もある、電気がないということで、このような時、同じ場所で、いつものようにいる方が安全だという場合もありますし、この辺については、私たちも勉強をしながら、やっていきたいとは思っています。

この中での電源の必要性をすごく感じたし、甘かった面もすごく反省になったので、もし、今後のことについて市との連携ができるのであればと思ったので。もっと長くなれば医療との関係も出てきますし、単純に避難所に行きなさいということではない。

やはり、今回、市との連携をもう少し綿密にしておくべきだったと、情報が大切だな、これば大事だと思ったので、先ほどお話をしました。

○出席者：備蓄の関係ですが、避難所が開設されて避難所に物資がないところに配布されると考えますので、避難所の運営は、各町内会が入る自主防災計画に基づいた地域の調査を実施しながら、誘導を行う。本町地区生活館には、50人くらいしか入れない。夏場であると外にテントを張ってということもできますが、冬場であれば50人です。

電源設備も何もない。タンクも水を入れれば一時的に使える。

自助が最初、その次に共助、最後に公助だと私も町内会では考えています。

○事務局：備蓄のお話ですが、市として備蓄しているものを掲載しておりますが、備蓄計画を作成しているのですが、それに基づいて購入していくこととなります。

それから、すべて備蓄するという考え方ではなく、協定も結んでいますので、レンタルで借りることもできます。そういうものを用いながら対応していきたいと考えておりますが、この間のブラックアウトは初めてのことでしたから、札幌や旭川が停電、流通が止まったということもありますので、そこは問題点としてとらえております。

備蓄については、まず、自分自身を守る自助、自分で最低3日、最近では1週間くらいにしてもらうことが大前提です。市で備蓄しているというのは、例えば大きな地震があつて、建物が崩壊し、このくらいの被害があり、避難される方がこのくらいいる

ということを予測して、備蓄をすることを考えており、それが今回作成している備蓄計画になっております。

それに基づいて毛布とか食べ物とかをそろえていきます。

今、何よりも大事なことは、知らない方もいると思いますので、最初にお話しした、自分自身は自分で備蓄してくださいということを、市としていろいろなところで発信していかなくてはならないのかな、例えば、ホームページ、広報、Twitter、LINE で発信していかねばと思っています。

備蓄計画ですが、4月にホームページにより公開する予定としています。

(2)避難行動

【質疑応答】○事務局：西村さんからお話がありました、災害があった場合には、まずは逃げるというお話がありましたので、このことについて市では、今回、このような状況であったので、まずは逃げるという認識、体制を持つということがあったととらえています。

(3)避難所運営・支援

【質疑応答】○出席者：大きな災害が発生し、芦別で避難所の開設が必要になった場合、申し訳ないけどできないと思う。これに停電が重なったら、連絡の取りようがない。町内会としては、ある程度の年齢世帯は把握しているけれど、緊急連絡用として必要だとしても、新たな名簿を作ろうとしても個人情報の壁があり、拒否されたら終わりです。連絡のもらえるところしか名簿作成ができない。肝心の時に役に立たない、それでもある程度、世帯数を把握しなければならないから、印鑑がもらえないそういった名簿も班長さんが集めなければならないという状況がある。

万が一のためにということで、名簿が渡されたけれど、部外秘となっている。ほかの人に教えてはいけないということになっている。

見せられないものをなぜ会長に配っていると、言えないわけではないけれど、今万が一のために預かっている。

そういったことで、ある程度役員さんたちのところでも話しているんですけど、避難所を開設するときに無理だと思う。

携帯で連絡を取って、学校をたぶん開放すると思うが、小さいところを開設しても、20人くらい来

るといっばいになるし、手伝いの人、ボランティアを受け入れる体制を組むとパンクしてしまう。そういった状況の中で、芦別では遠いでしょ。そこでお互いが連絡を取っていくとした場合、個別に携帯電話を使用していると、あっという間に電池がなくなる。

こういうことを含めた時に、どういう風に避難所を開設していくのか、避難所のキャパ、備品の配置などある程度計画を早めに練っておかないと。

きつい言い方かもしれないが、避難所を開設しても、芦別市はここまでの災害しか対応できませんということを、緊急避難は市民個人個人の対応力に任せざるを得ないということを、市民に周知した方がよい。

前に避難所の載ったものを配布していましたよね。そろそろ改定期ですかね。そういうものを整備してどれだけ活用してもらえるか、わからないけれど、作業は必要になると思う。

○事務局：先日、北海道新聞にも出ていましたが、滝川市が避難所の関係で、職員の数も少なくなっているのので、避難所を開いても職員がいけなくなる（配置避難所と、巡回避難所）という記事が出ていました。

実際に、芦別も避難所開いたときに全部の避難所に職員を張り付けるといったことは無理な話になってくると思います。今こちらで考えていたのは、拠点となる避難所、そこにいろんな備蓄品を置くことを考えているんですが、今までの話からすると、まずは逃げるということを考えて、近くの避難所に逃げる。その近くの避難所も、市が管理しているところもあれば、町内会で管理しているところもあり、地域の方に鍵を開けてもらわなければならないということが出てくる。そういう部分というのは具体的に町内会さんとは話をしていないので、今後、課題なのかなと感じています。

それから、先ほど要支援者名簿の話が出ていたんですけれど、別紙2の3検証(14)その他で話をしたいと思っています。タイムラインを作るのと、それに基づいてこういったことをやっていきたいということの後でお話ししたいと思います。

○出席者：災害があったときみんなパニックになる。急いでこういうことをやってくださいと言われても行動に起こせない。普段から、きちんとしたことを作って

おかないと、何もできない。

今、個人情報の話ですけど、個人情報は守っていかなくてはならないことと、開示しなくてはならないこともあると思う。

いろいろなところに行くが、情報を開示してくれるところと、開示してくれないところがある。

市営住宅だと出入りが多い、健康な人が入っているときはいいが、避難するときに一人で避難できない方がたくさんいるじゃないですか。個人情報を私たちは漏らしてはいけないということになっていきますので、漏らさないが、漏らさなければいけない時もあると思う。この人が危ないというときは、誰かに個人情報を告げなくてはならない。

避難させるというのが一番大事だと思っていますが、こういう会議をするときに決まったようなことを言いますが、命が大事、これは大事だという話をするけれど、ここに、こういった人がいて避難できないということ、はっきりさせるのが本当ではないのかなと思う。

○事務局：今お話ありましたけれど、先ほど別紙2の3検証(14)その他でお話しをするといった部分ですけど、個人情報がネックになっているということだったので、これは自分の考えですが、個人情報を取り除いた形で、例えば安否確認が必要だという方の地図を作っておいて、出来上がった段階で誰か一人に頼むということはできないから、このエリアは、この人といった感じで作れたらいいなと思っています。

また、別紙2の3検証(14)その他でお話ししますが、個人情報が理由で、あれができない、これができないとなると、何のためのものかわからなくなるので、だったら、できることを、作った方がいいのかなと自分は思っています。

(4)物資及び資機材の備蓄・支援

【質疑応答】○事務局：備蓄の場所について、拠点となる場所に置きたいとしてお話ししましたが、違った意見はありませんか。

○出席者：避難場所により人員が変わるので、不測の事態があったときにはそっちに持っていくといったことでいいと思います。

○出席者：避難所自体が小さいと置くところを作るのが大変だと思う。

○事務局：食べ物が一番困ります。特に水については、冬があ

るので、凍って破裂する恐れがあるので、おけない
と思う。

○出席者：登別の停電のことを聞いたことがあり、必要なのは、
暖房と水。

そのために、発電機一つ置くといった話を聞いた。
電池は必ず買って置く。備蓄は最低でも個人で備
蓄するといったようなことも聞いた。

少し後になると思いますが、(家庭で) 備蓄する
ものについて、こういったものをそろえてください
といったチェックできるものを、市ホームページに
載せようと考えています。

○出席者：高齢者になるとホームページは見れない。

○事務局：広報に入れます。

○出席者：みんな高齢者になってくると思うので、人が伝達す
ることとなるので、見やすいものを配布するだとか、
毎日見るようなものを作らなければと思います。

○出席者：備蓄についてですが、道路や橋が寸断されることも
あるので、分散がいいと思います。

(5)災害対策本部の体制と活動

【質疑応答なし】

(6)救助救出・災害派遣要請

【質疑応答なし】

(7)医療活動

【質疑応答】 ○出席者：在宅介護されているお客様で、在宅酸素療法をされ
ている方がおりました、酸素が止まりました。業者
との間で、なかなか連絡が取れないという状況の中
で、市立病院でこういった方は特例で入院を受け入
れていただけるといったことがありまして、非常に
助かりました。

それから、喀痰吸入のサクションも電気が必要だ
ったので、これはご家族にお願いをして直接痰を取
り除く処置をされた方もおりました。

特殊寝台を使われる方、褥瘡予防でエアマットを
使われる方で、背もたれが上がったまま止まってし
まい、それをどうやって手動で戻すのかといったこ
とがありました。

(8)広報・情報提供

【質疑応答】 ○出席者：広報車の情報提供ですが、もう少しわかりやすくし
てほしい。

○事務局：止まって話すなど、わかりやすくしたいと思います。

○出席者：停電地区にビラを配布したとありますが、どういっ
た内容のビラですか。

○事務局：避難所が開設しているといった中身と、停電の情報がこちらには、まだ入っていないこと、何かあったら市のほうに連絡といった内容でしたが、停電で電話が使用できない状況でしたので、難しかったのかなと思います。配布は、上芦別の啓南（三井）地区に配布しました。

○出席者：避難所に何人入るかとか把握しているのか。

○出席者：以前配布されたマップに記載されている。

○事務局：災害の状況にもよりますが、あふれるといった場合、バスで移動させるといったことを考えているが、一斉にすべてとなるとできないですし、橋や道路が寸断されるとできないですね。

(9)ライフライン

【質疑応答】○出席者：水道にポリタンクがあり、そういったところに運んでくれると思います。

○事務局：奥芦別で、今回、実際に運んだ例があります。

(10)交通

【質疑応答】○出席者：JRがこんなに運休だったのか。どこか不通の原因があったのか。

○事務局：遮断機と信号がダメだったと思います。

(11)孤立地区

【質疑応答なし】

(12)ボランティア

【質疑応答なし】

(13)積雪寒冷期等

【質疑応答なし】

(14)その他

【質疑応答】○事務局：安否確認が必要だということで、今回連絡を取ということで、時間がたってしまったので、まずは携帯電話番号の把握を考えているのと、先ほどお話ししました、安否確認をスムーズに行えるように、町内会さんと連携をして、マップを作成できたらいいと考えています。これにつきましては、今後、そういった投げかけをしていきたいと考えています。

先ほども話しましたが、これにはなるべく余分な個人情報はいれないことを考えています。それから、要支援者名簿でOKをもらっている方は確認なしで地図に落としていくことと、名簿に番号を付けて、地図にも番号を付けてリンクできるようにと考えておりますが、作るとなると相当時間がかかり大変だと思っておりますので、ご協力お願いしたいと思っております。

- 出席者：五十音でなく、地区別、世帯ごとになってくれるとありがたいです。
- 事務局：わかりました。最初に、回覧で安否確認を希望するかどうかを行いたいと思っています。マップ作製についてはこれからですので、その時は、またいろいろご意見をいただきたいと思います。
- 出席者：こういった会議は、今後もやらかないのか。年に何回か。
- 事務局：開くことはいいんですが、検証会議といった会議は、今回の会議だけになると思います。

4 その他

①タイムラインについて

タイムラインを町内会さんと作りたいと考えております。市の内部ではすでに作ることで動いております。安否確認の項目があります。今後、防災訓練などで、使っていきたいと思います。これにつきましては、先ほどのマップのこともありますので、合わせて正式に後日お願いしたいと考えています。

②出席者からの意見

今回の災害ですけど、激甚災害に指定されております。今回被災したら、避難所は地元だと思うが、富良野に向かう方などで避難者がいた場合受け入れをしなくてはならない。今、海外の方が多くなってきているので、何かあったときにそういった対応が必要だということと、今回、広報車だけ走らせたが、救助がなかったのも、例えば消防団に話をし、消防車を走らせるだとかといった部分もありなのかなと思っています。

こういう検証を詰めていって、今後の災害に備える方向で皆さんと連携をしていきたいなど、自分は思っています。

③次回開催日

今日、いただいた意見をまとめ、皆さんにご提示していきたいと思っています。後日、日程については、通知させていただきます。

5 閉会